

乳用牛群検定全国協議会

会長 寺脇 良悟



この度、乳用牛群検定全国協議会会長に就任いたしましたので、ご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルスが猛威をふるい、検定業務が困難をきわめる中、検定員の皆様や関係する方々が業務の遂行のため、日々、力を尽くされていることに敬意を表します。

近年の酪農情勢は厳しいと言われ続けておりますが、一方で飼養頭数は上向きとなり、また、生乳生産量も増加傾向を示すなど、明るい情報が伝えられています。

牛群検定にかかる動向では、酪農家戸数の減少に伴う検定農家数の減少傾向はみられますが、検定農家ならびに検定牛頭数の普及率は小さな上下変動はあるものの維持しています。このことは、検定員の皆様ならびに牛群検定関係の方々のご尽力によるものと考えております。

近頃は、データ農業、スマート農業、AI 農業などなど、記録を収集し、分析し、管理や経営に活かす農業の在り方が盛んに唱えられています。このような農業で重要なデータは、環境に関するデータ、管理に関するデータそして生体に関するデータとのことです。牛群検定においては、気象情報や牛舎内の気温や湿度は環境データであり、飼料給与量や授精記録は管理データ、そして産乳成績や体細胞スコア、繁殖成績は生体データに相当する記録です。牛群検定は昭和 50（1975）年に開始され、収集項目が時代の要請に応じて加えられていますが、検定の骨格が約 45 年も前に構築されていることに、先達の将来を見据える力に驚きます。

データ農業が近年重要視される理由は、農業の大規模化ですが、牛群検定の資料からも明らかのように酪農においても同様です。平成 27（2015）年度と令和 2（2020）年度を比較すると、酪農家当たりの飼養頭数は検定農家で約 9 頭、畜産統計では約 7 頭多くなっています。健康でストレスを与えずに乳牛を飼養するには、一頭一頭にきめ細かい管理が不可欠です。安心して安全な生乳を生産するには、ますますデータの収集と分析そして分析結果から問題点を見つけ出し、解決のための実践が必要です。情報収集やデータ分析手法は近年急速に進歩し、大量のデータを短時間で編集・分析することは可能になりました。しかしながら、収集するデータの正確性や分析結果の解釈や実践にはまだまだ経験豊かな人材が必要不可欠です。

必要な情報と分析結果を分かりやすくそして使いやすい形で迅速にお返しすることが大切であると考えます。このことは、牛群検定の今後の発展に関わる重要事項であります。酪農家の皆様そして関係各位には牛群検定のご理解とご支援ならびにご協力をよろしくお願い申し上げます、就任の挨拶といたします。